2014 年度卒業論文

シンガポールと日本における「高齢者デイケア」の比較検討

2011 年度入学

九州大学　文学部　人文学科　人間科学コース

社会学・地域福祉社会学専門分野

要旨

本論文は、遠く離れて暮らす両親の老後を考え「高齢者デイケア」について明らかにしていくことを目的としている。ここで言う「高齢者デイケア」とは、デイサービスや老人憩いの家、ふれあいサロンなど高齢者の心身機能の維持や回復を目指しているサービスのことを指す。シンガポールに永住する両親と日本で就職することが決まっている私は、将来、シンガポールと日本という離れた場所で親の介護問題に直面する。そこで高齢者を支える有能な“サポーター”を明らかにするために、シンガポールの「高齢者デイケア」の 1 つである「Senior Activity Center」と日本の「ふれあいサロン」に行って調査を行った。そこから得られたデータを中心に、離れて暮らしている両親にとって老後より楽しく生活していける施設とはどのようなものなのかを考えていく。

第 1 章では、義理の姉（中華系シンガポール人）と電話で話したことがきっかけで発見したシンガポール型介護について記している。シンガポール型介護とは、高齢者の自宅に住み込みで働いて介護をする、外国人労働者のメイドを雇うことである。メイドを雇うことにより自宅で、尚かつ家族のそばでの介護を可能としてくれる。また、高齢者の一人暮らしを可能としてくれる 1 つの手段としてメイドがあるのではないかと考え、メイドに着目した。

第 2 章では、シンガポールに帰省した際に行ったインタビュー調査をもとに、シンガポールの高齢社会の現状を見ていくと同時に今後もシンガポールの高齢者を支えていくにあたってメイドは有能な“サポーター”となるのかを検証する。上野（2011）の論を参考にしながら、「家族を頼らないことを自ら選ぶ人」と「家族を頼りたくても頼れない人」の 2 つに分類されることを明らかにし、メイド型介護には限界があることを述べている。

第 3 章では、シンガポールの Senior Activity Center での調査を中心にまとめていく。そこではどのような活動が行われているのか、どのような活動雰囲気であるのか、そこにはどのような高齢者が訪れるのかをまとめている。

第 4 章では、日本のふれあいサロンを 3 カ所見学し、第 3 章と同様にまとめている。

第 5 章では、第 3 章と第 4 章の調査内容を踏まえた上で、私の両親の老後を頭に置きながら「高齢者デイケア」の発想と今後の課題について述べて締めくくった。

目次

はじめに 1
研究の背景・動機 1
母国のシンガポールについて 2
1. 調査の出発点 4
1.1　1 本の電話から発見したシンガポール型介護 4
1.2　一人暮らしを可能としてくれるメイド 4
2.　シンガポールの高齢化社会の現状—メイド介護 6
2.1　調査概要 6
2.2　高齢者にとってキーパーソンとなる「家族」 6
2.3　家族に頼らないことを自ら選ぶ人 10
2.4　家族に頼りたくても頼れない人 11
2.5　家族は本当に必要とされている？ 12
2.6　地域とのつながりとメイド型介護の重要性 13
2.7　メイド介護の限界 18
2.8　「家族」から「地域」へ 19
3. 第 2 のソリューションとしての Senior Activity Center 20
3.1　調査概要 20
3.2　Jalan Bukit Merah の SAC 21
3.3　バリアフリーで車いすにフレンドリーな SAC 22
3.4　自宅訪問の様子 23
3.5　Community lunch time 28
3.6　Ang Mo Kio の SAC 28
3.7　自宅訪問する難しさ 30
3.8　お年寄りの朝食 31
4. 日本における「高齢者デイケア」 32
4.1　調査概要 32
4.3　事例 2：清川サロン 37

4.4　事例 3：ふれあいサロン春吉 40
4.5　事例 4：特別養護老人ホーム 42
5. 分析と考察 47
5.1　シンガポールと日本から見えてきた共通点と異なる点 47
5.2　「集まる」意味を問いなおす 50
5.2.1　「集まる」ことで生じるニーズの差異 50
5.2.2　重度の人の特徴を最大限にいかす 51
5.2.3　少数派と多数派 52
5.2.4　小活 53
5.2.5　「集まる」がもつ連帯性 54
5.3　共振する力をいかす新たな「高齢者デイケア」 56
5.4　「高齢者デイケア」に潜む課題 56
おわりに 58
参考文献 60
参考 URL 61